

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4170300257
法人名	有限会社 サポート
事業所名	グループホーム「つくしの菴」
訪問調査日	平成20年2月15日
評価確定日	平成20年3月18日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170300257		
法人名	有限会社 サポート		
事業所名	グループホーム「つくしの菴」		
所在地	佐賀県鳥栖市下野町1391-3 (電話)0942-83-7125		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年2月15日	評価確定日	2008/3/18

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	7.4 人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	8,400 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,000 円 (おやつ代含む)				

(4)利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	12 名	男性	3 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.1 歳	最低	69 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	古賀医院、竹田内科医院、やまうちクリニック、デンタルコムスン、三原医院、おの眼科医院、田尻外科胃腸科医院 他
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者や職員は介護理念を心に刻み、職員は管理者の熱意と強いリーダーシップの下、基本方針や心構えに従い、安心してその人らしく生活できる優しい介護を日々実践している。利用者はマイペースでゆったりした流れの中に日々を過ごしている。事業所では年間の行事が多彩に数多く行われている。正月の初詣から12月のクリスマスまで季節の年中行事があり、また、保育園児や小・中学校の児童生徒、各種のボランティアによる訪問は利用者や家族の好評を博している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 1、(課題)家庭的なしつらえとは言い難い門構えで、昼間も門扉が閉められている。(取り組み)鉄格子状の門扉であるが、利用者家族とも話し合った結果そのままとしている。2、(課題)献立の栄養バランスや摂取カロリーの管理等が十分とは言い難い。(取り組み)保健所に依頼してチェックしてもらおうと共に食事量、水分量等は毎回健康管理表に記載している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で日常の取り組み状況を振り返り、出来るものから改善につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議の主な議題は運営に関するものや各種行事に関するものである。評価の取り組みや評価後の改善に向けた取り組みをモニターしてもらうなど評価と運営推進会議を一体的に活かした取り組みを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見等については、重要事項説明書に苦情申し立て窓口や担当者名を記載する他、玄関に意見箱を設置している。また、家族来訪時にはその都度遠慮することなく意見等言ってもらおうよう話しているが、運営へ反映するような意見等の表出までにはつながっていない。意見等が出されるような取り組みを現在検討中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域自治会の一員として各種行事に参加し、子どもクラブの廃品回収に積極的に協力したり、保育園や小中学校からの訪問をよく受けている。近隣の人が日常的に訪問することは少ないが野菜を貰ったりする関係は出来ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者の介護に対する思いがこめられた事業所独自の理念が作りあげられている。また、地域密着型サービスの果たす役割を踏まえ「地域密着型サービス提供者としての心構え」を文章化している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用研修時には、理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、管理者と職員は申し送りの都度理念や職員の心構え等を唱和し、日々のケアの中でその実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として地域の行事等に参加し、又、子ども会の廃品回収にも積極的に協力している。更に、地元幼稚園、小中学校とも良好な関係を持ち事業所の行事にも参加してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価の意義をよく理解しており全職員で自己評価に取り組んでいる。改善を要する事項については出来ることから少しずつ取り組んでいる。	○	評価で見出された課題については改善計画シートを作成するなど改善計画やそのプロセスをより具体化し全職員が確認しながら取り組むことができるよう改善計画シートなどの作成も期待したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定例会議が開催され、運営面の報告のほか地域とのかかわり方(各種行事等)などが協議され、委員からの意見や提案もある。	○	自己評価や外部評価の取り組みや評価後の改善に向けた取り組みを運営推進会議でモニターしてもらうなどサービス評価と運営推進会議を結びつける取り組みも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは法人代表者や管理者、ケアマネージャーの交流機会も多く、運営やサービスの向上策等について話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季刊発行のたよりを家族等へ送付し事業所での暮らしぶりを伝えている。家族訪問時には行事の写真を見てもらったり、遠方の家族には毎月の請求書送付時に暮らしぶり等を伝える文書を同封したり、電話でも適宜報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時は意見等を遠慮なく話してもらえるよういつも伝えており、また、玄関には意見箱が置かれている。出された意見や要望にはきちんと対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者各人に担当職員が決められているが全職員で全利用者をケアしており、離職者や新規採用者が出て利用者への動揺がないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	技術習得を主体とした施設内研修や市等の介護研修に参加している。認知症介護実践研修やヘルパー等資格取得講習研修も受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の各種協議会に参加し研修会等を通じ交流を図っている。また、同業者の施設を利用者とともに訪問するなどして質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に2日間の体験入所が行われている。本人や家族との面談を行い、また、入所当初は家族にできるだけ多く訪問してもらうなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、介護される側という意識を持たず一緒に過ごしており、利用者から料理の下ごしらえなど教えてもらうこともよくある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向を把握しながら支援している。また、言葉や表情、視線からその真意を推し測ったり、それとなく確認して対応している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望、医師等施設以外の関係者の意見を含め、また、職員の気づき等も取り入れた会議を通じ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は長期短期で見直しが行われている。利用者の状態変化があった場合には、その都度、医師と相談し、状況に即したケアに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じた、通院や送迎、外出、外泊の支援等、定期的又は臨時的訪問診療・治療等必要な支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のなじみのかかりつけ医や本人家族が希望した地域医療機関の中の医師がかかりつけ医となっている。かかりつけ医の定期訪問診療や臨時的往診があるなど、かかりつけ医とは良好な関係を持っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の介護・看取り介護については入所時から家族・職員・医師と十分話し合い、方針・対応の共有を図っている。過去に2件のターミナルケアを実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助などの声かけはさりげなく行われている。また、記録類についても個人情報に配慮したものとなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、利用者は起床から就寝まで個々の生活習慣に合わせたペースでフリーに日々を過ごしており、職員は一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握した料理となっている。料理の下ごしらえや食後の片付けは利用者と一緒にしており、食事は利用者と職員が同じテーブルで和やかに行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人・家族の同意と協力を得て、週に2回の入浴としている。入浴は午前・午後、カラスの行水並み・長風呂、個別入浴など利用者の好み・楽しみ方に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	金魚のえさ係や料理の下ごしらえ、食後の片付け、庭木や花の草取り、洗濯物干し・たたみ、外出のしたく手伝い、清掃など一人ひとりの力を出してもらっており、そのための場面作りやお礼の言葉を言うなど配慮がなされている。尚トランプは利用者みんなが楽しんでおり、そのカードや遊具等も準備している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	所定の行事外出の他、その日の話の流れや思い付きの要望等で散歩やドライブ、ピクニック、買い物、外食等外出がよく行われている。また、家族との外出・外泊にも柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵を掛けることの弊害を理解しており、玄関や居室に鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜勤者は毎日火災想定でのシュミレーション訓練をしている。年に2回消防署の指導を得て、利用者と一緒に避難訓練をしている。地域の協力体制については地区の区長等に働きかけている。	○	夜間や職員だけの誘導の限界を具体的に確認し地域住民の参加や協力を得た避難訓練の実施も期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日健康管理表に記録している。食事は二度炊きや刻み食もあり、栄養バランス等について保健所の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には不快な音や光はなく、西日の当たるフロア西側の窓にはブラインドがあり、又、非常口ドア窓には遮光フィルムが張られている。尚、フロア等は草花や手づくりの壁掛け等で季節感が取り入れられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品はエアコン・電灯・カーテンのみであり、そのほかの家財・用品等はみな持込である。使い慣れたベッドや整理ダンス・小物入れ等が置かれ、書籍や写真・飾り物等、中には位牌も持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		